

東明

令和7年1月1日発行
 男鹿市立男鹿東中学校
 校長 鳥井 雅則
第9号



明けましておめでとうございます 2025年 —新年の抱負を語るう—

2025年、新たな年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、清々しい新年をお迎えることとお喜び申し上げます。人は誰しも、新年を迎えるこの時期、清新な気持ちになるものです。初詣に行く人は、これから始まる一年を展望しながら、手を合わせたり、神様にお願いしたりして夢を描き、新年の抱負を掲げるものです。「抱負」とは何か、国語辞典で調べてみると、「心の中にもっている考えや計画」とあります。今年一年間、何を目標にするのか、目標達成のために何を頑張りたいのかについて、じっくりと考えながら、「抱負」を声に出して語ることをお勧めします。例えば、「定期テストでプラス50点を取りたいので、平日家庭で3時間の勉強時間を確保する」「野球部でレギュラーに定着するために、毎日素振りを30分する」「時間を有効に使いたいのので、スマホは夜9時以降いじらない」など、なりたい自分をイメージして、具体的に何を頑張るのかを決めて、思い切って人に話すと効果的です。「抱負」は、本来心の中にもつこととありますが、それを言葉として表してみるとおもしろいです。言葉は力になります。言ったからには、頑張ろうと自分を奮い立たせることができます。また、家族や友達に抱負を宣言することで、周りの人も応援してくれます。共感して一緒に頑張ってくれる友達の輪が広がる場合もあります。言葉に表すことが苦手な人は、文字に書き表すことも可能です。それを見えるところに貼っておくことで、自分自身への励ましにもなります。なりたい自分に少しでも近づく行動をとることができれば素晴らしいことです。この新年の絶好の機会を活かして、ぜひ挑戦してみてください。一年前に立てた抱負を覚えていますか。思い出せない人も多いのではないのでしょうか。それは、目標を立てたときの気持ちや決意の強さが十分でなかったからです。夢や目標を立てた以上は、それが実現できたのか、実現しないまでも、どこまで到達したのかを振り返ることはとても大きな教育的な価値があります。生徒にとっては、成功体験は必要ですが、人生で達成できなかったり、失敗体験をしたりすることも少なくありません。大人になる過程で、たくさんの体験を積み重ね、豊かな人生の実現への意味のあるステップにすることを期待します。

2024年の後期前半を振り返ると、アマノさんとのコラボ弁当などを企画した2年生有志が、県活性化選手権で見事な発表をしたこと、地域貢献活動や海浜清掃、地域の体育祭や文化祭等、多数の行事へボランティアで参加したこと、北海道・東北大会を制覇したラグビー等の部活動で活躍したことなど、数え上げればきりがありません。特に地域と協働で汗を流した素晴らしい活動は、優しさにあふれていました。12月26日から19日間の冬休みが、すでに始まっています。後期後半も3月までの残りの日々を、これまで以上に、楽しく充実したものにしてほしいと思います。

皆様にとって、よき一年となることをお祈り申し上げます。職員一同、生徒一人一人の成長を保障する教育活動を積み重ねてまいります。今後とも、男鹿東中学校へのご支援をよろしくお願いいたします。

東中ギャラリー ～学校行事から～



2年生総合発表会より



2年生箏の授業より



3年生英語の研究授業より



1年生調理実習より